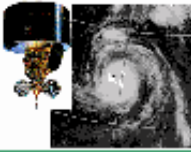



予報業務の概要

観測データ(国内外)


宇宙からの
気象観測網




高層気象観測
ラジオゾンデ
気象ロケット
航空機



気象レーダー



地上気象観測網
各気象官署
アメダス観測



海洋気象観測網
海洋気象観測船
一般船舶



外国気象機関



データ収集

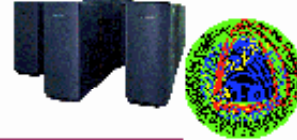
解析・予報・情報作成発表

- 気象庁本庁（全国予報中枢）
- ・地球規模の大気実況解析・予報
 - ・日本全域に関する防災気象情報発表
 - ・台風、海上警報等の国際センター



気象資料総合処理システム(COSMETS)

数値解析予報システム(NAPS)
スーパーコンピュータを用いた
大気状態予測（数値予報）



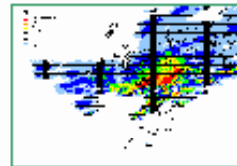
全国中枢気象資料自動編集中継装置
(C-ADESS)

国内外のデータ収集・配信
データ量は5億文字/日以上



支援資料

- 管区気象台等（地方予報中枢）
- ・各地方の気象特性を踏まえた解析・予報
 - ・担当域の分布予報、気象情報等発表

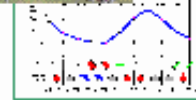


地方中枢気象資料自動編集中継装置
(L-ADESS)

各管区内の気象資料伝送網

支援資料

- 地方気象台等
- ・複雑な地形影響を踏まえ局地的に急激に発達する激しい気象現象を監視・予測
 - ・各都道府県の気象特性、災害特性等を踏まえた注意報・警報
 - ・府県毎の天気予報・時系列予報等発表



情報発表

情報の種類

- 警報
- 注意報
- 台風予報
- 気象情報
- 天気予報
- 週間天気予報
- 分布予報
- 時系列予報
- 各種天気図
- 各種解析値
- 各種予報値
- 解説資料

等



注意報・警報・気象情報

気象庁は、大雨や強風、大雪等によって災害が起こるおそれがあると想定される場合には「注意報」を発表し、更に重大な災害が起こるおそれがある場合には「警報」を発表している。

また、気象状況の変化や地域の実状に応じて、防災に関する気象情報を発表している。

気象による影響は各地域によって異なるため、各都道府県を2～8つに細分した区域毎に発表基準を定め、注意報・警報を発表している。

警報の種類

大雨、暴風、暴風雪、大雪、高潮、洪水、波浪

注意報の種類

大雨、強風、風雪、大雪、高潮、洪水、波浪、濃霧
雷、乾燥、なだれ、着氷、着雪、霜、低温、融雪

大雨警報の基準例

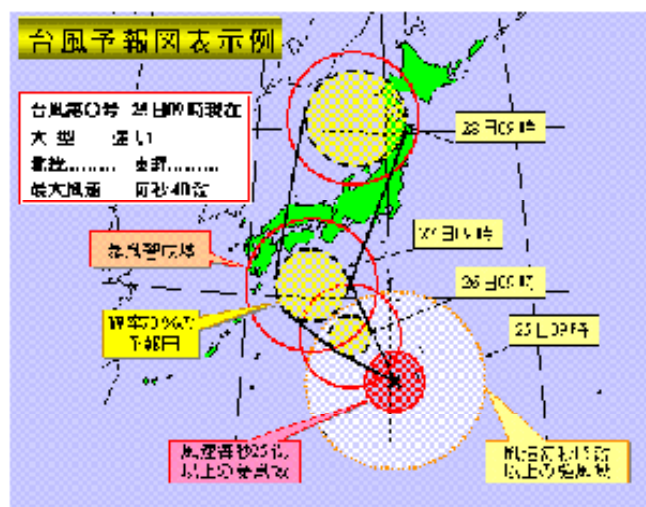
時間雨量	警報基準
1時間	40mm 総雨量:100mm
3時間	80mm
24時間	150mm

区域細分例



台風に関する情報

我が国に多大な被害を及ぼす台風の中心位置や強度の実況および予測に関する情報を発表している。



防災気象情報の伝達

